

腸内細菌の変化 メタボ肝炎に関係 県立大など研究

が変化していた。今後研究を進め、肝炎に関わる細菌を特定し、予防や治療法開発につなげる。

富山県立大工学部医薬品工学科の長井良憲教授、大学院博士前期課程の葛西海智さんらの研究グループは、メタボリック症候群に伴う脂肪性肝炎の発症や、肝臓が硬くなる「纖維化」の進行に、腸内細菌の変化が関わっていることを明らかにした。

研究グループは、人間の脂肪性肝炎に似た症状を持つたマウスを使って実験した。高脂肪の餌を与えて肝炎を発症させ、ふんから腸内細菌を調べると、正常マウスに比べ、免疫の維持に関わる細菌が減少しているなど、腸内細菌の数や種類

研究は県立大の古澤之裕准教授や河西文武講師、県薬事総合研究開発センターハ、徳島大などと合同で行い、成果は17日、スイス科学誌「インターナショナル・ジャーナル・オブ・モレキュラーサイエンス」にオンライン掲載された。